



福島中だより

12月号

H28.12.1発行
文責：校長

朝夕ずいぶん冷え込んできました。インフルエンザも、例年より1か月も早く流行の時期を迎えています。3年生は受験も近づいてきますので、健康管理をしっかりさせていきたいものです。

◆◆◇ 子どもの学力を向上させる秘訣～エビデンスに基づく子育ての効果～ ◇◆◆

昨年、『「学力」の経済学』という本が出版され、累計30万部を超えるベストセラーとなりました。その著者、中室牧子氏（慶應義塾大学総合政策学部准教授）の講演を聞く機会がありました。そのときの演題が上記のタイトルで、エビデンス(=evidence)とは「科学的根拠」と訳されていました。

中室氏のご専門は、教育を経済学的手法で分析する「教育経済学」です。氏によれば、我が国では、こと教育に関しては（国家レベルの教育施策の議論においてさえも）経験で語られることが多く、また、1つの突出した事例（例えば、子ども全員を東大に合格させたお母さんの子育てなど）に目が奪われ、大衆がそれを追いかけてやろうとする傾向に違和感を感じるということでした。これに対して海外（特に米国）では、教育の分野においても、客観的なデータを基にした研究が、日本よりも早い段階から継続的に進められてきていて、そこから分かってきたことを基に考えると、今の学校教育の在り方や、家庭で行われている子どもの教育やしつけについて、「それってどうなの？」と疑問符がついたり、「やっぱりそうだよ」と納得がいったりすることが多いということです。講演では、国家レベルで行う教育施策も家庭で行う子育ても、データを偏りなく集めて科学的に分析し、それを根拠として進めていくのが賢明であるということ、いくつかの事例や研究成果をもとにお話をされ、私は大変興味深く拝聴しました。中室氏のお話の中から、特に印象に残ったいくつかをご紹介します。

*子どもを将来の成功に導くためには「非認知能力」を育てることが大切

「非認知能力」とは、IQや学力テストで計測される「認知能力」とは違い、「忍耐力がある」とか「社会性がある」といったような、人間の気質や性格的な特徴のようなものを指し、例えば右の表のようなものがあります。米国の研究者によると、この非認知能力が人生の成功に大きく影響するというのです。これらの能力は家庭における「しつけ」や、学校や社会における、人や集団との関わりの中で身に付いていく能力であり、幼少期に身に付けることが望ましいが、教育やトレーニングによって、成人後まで伸ばし鍛えることが可能であるとされています。

学術的な呼称	一般的な呼称
自己認識	自分に対する自信がある、やり抜く力がある
意欲	やる気がある、意欲的である
忍耐力	忍耐強い、粘り強い、根気がある、気概がある
自制心	意志力が強い、精神力が強い、自制心がある
メタ認知ストラテジー	理解度を把握する、自分の状況を把握する
社会的適性	リーダーシップがある、社会性がある
回復力と対処能力	すぐに立ち直る、うまく対応する
創造性	創造性に富む、工夫する
性格的な特徴	神経質、外向的、好奇心が強い、協調性がある、誠実

この中で中室氏が最も大切としているのが「自制心」と「やり抜く力」です。これらの力を身に付けた子どもは学力も高くなり、社会に出ても成功する確率が高いという研究結果が出ているそうです。では、これらの力を鍛え伸ばすにはどうしたらよいのでしょうか？例えば、「背筋を伸ばす」などのような、いつも意識して行わなければならないことを継続的に実行させることや、「細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する」ことを生活のいろんな場面で繰り返し行わせることによって自制心を鍛えることができます。また、「能力とは生まれつきのもではなく、努力によって後天的に伸ばすことができる」ことを信じている子どもは「やり抜く力」が強いことが分かっていることから、親や教師が定期的にこのようなメッセージを与えることで、子どもの「やり抜く力」を強め、成績の向上や将来の成功に繋げることができるというお話がありました。

*「子どもをご褒美で釣ってはいけないのか？」に関して

「今、勉強をしておくことが、子どもの将来にプラスにはたらく」という考えから、親は「勉強しなさい」と言うわけですが、子どもにとって「将来のプラス」というのは遠くて分かりにくいご褒美と言えます。もっと近いところに、努力しただけで手に入れられそうなご褒美（目の前のにんじん）を設定することは悪いことではなく、むしろ理にかなっていると中室氏はおっしゃいました。ただ、ご褒美の設定の仕方は工夫が必要で、「成績が上がったら…」のような結果を求めるものより、「宿題が終わったら…」とか「本を1冊読み終えたら…」のように行動に対してご褒美を設定の方が効果的であるという研究結果も出ています。

*「能力をほめる」のではなく「努力をほめる」

例えば、テストの点数がよかったとき、「頭がいいね」と能力をほめるより、「よくがんばったね」と、努力をほめる方が効果があることが研究の結果分かっています。また、ほめて育てることは子どもの自尊感情を高める上で大切ですが、むやみにほめるだけだと、反省すべきときにその機会を失うことで根拠のない自信をもってしまい、かえって子どもの成長を妨げる場合もあるということです。

*「勉強しなさい！」はエネルギーの無駄遣い

勉強するように言うだけでは、子どもの学習時間を増やすどころか、逆に減ってしまう場合もあります。「勉強の様子を横について見ている」、「勉強時間を決めて守らせている」というような親の関わりが大切であることが研究の結果から分かっています。声かけだけのお手軽な関わりからは効果は期待できないということです。また、男の子には父親の、女の子には母親の関わりが重要とされています。

12月の主な行事

- 5・19日（月）リフレッシュデー（部活動休止）
- 8日（木）脊柱側湾検査（2年）
- 9日（金）餅つき体験（3年）
- 12日（月）市内中学校学習交流会（1・2年）
- 14日（水）学習コンクール（数学）
- 16・19・21日（金・月・水）清掃コンクール
- 22日（木）終業の日
- 23日（金）●天皇誕生日
- 24日（土）～冬休み ※始業の日は1/6（金）